

所長の部屋



所長の健康アドバイス

上手な受診の仕方

[2019年3月]

前回は、健診や人間ドックで異常を指摘された時に、どの医療機関を受診するかを書きました。大きな病院へ行ってみる、馴染みの開業医を訪ねる、どちらも良いと思います。お勧めできないのが、週刊誌などに載っている大学等の偉い先生を妄信し、その先生の専門以外の疾患で受診することです。

病院を受診する際は、なるべく救急以外の、通常の診察時間に受診しましょう。症状が重篤ならば救急受診も止むを得ないのですが、軽い症状や健診後の異常ならば、通常診察の方が希望する科の適切な医師に早く到達できます。救急室は多くの医師が交替で担当しているので、自分に合った医師に当たる可能性が低いのです。

診察室でもコツがあります。健診で異常がある場合は、必ず健診結果を持参しましょう。現在服用中の薬などの情報も持参してください。症状があつて受診する場合は、どのような症状が、いつから、身体のどこに起こり、その後どうなったかなど、具体的な情報を医師に伝えましょう。「しばらく前から風邪を引きました。」では不可で、「〇月〇日の朝からのどが痛く、翌日の昼から鼻水と咳が始まり、夕方から38℃の発熱があります。」などと言ってくると助かります。一般的に医師は、丁寧に患者の症状と経過を聞くことで、かなり病気の正しい診断に近づきます。

付き添いの人がばかりが話をすることがありますが、できれば患者さん自身が話をしたいです。また手紙に症状や経過を書いて来る方がいます。長々と書かれると読むだけで時間がかかり、まして汚い字だと読む気がしません。患者さん自身から、簡潔に、医師の質問に答える形で話すのが最も良いでしょう。

上手に受診して、適切な医療を受けてください。

乙訓保健所長 時田 和彦

山城南保健所ホームページ

<http://www.pref.kyoto.jp/yamashiro/ho-minami/>

「ひとこと健康アドバイス」 バックナンバー

H27.11～H28.6 健康寿命を延ばす（メタボリック症候群についての話）

H28.7～H29.3 がんを防ぐ（食道癌、胃癌、大腸癌の話）

H29.4～H29.6 医者のお話（病院救急室の話）

H29.7～H30.5 健康診断結果への対応（検診で異常値が出たときの話）